



2025年5月15日

各位

会社名 ソースネクスト株式会社  
代表者 代表取締役社長 兼 COO 小嶋 智彰  
(コード番号 4344 東証プライム)  
問合せ先 取締役兼 CFO 青山 文彦  
電話番号 03 - 5797 - 7165

## 投資有価証券評価損(連結・個別)、持分法による投資損失(連結)及び 関係会社株式評価損(個別)並びに連結業績の前期実績との差異に関するお知らせ

ソースネクスト株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長 兼 COO:小嶋 智彰)は、2025年3月期決算(2024年4月1日~2025年3月31日)におきまして、投資有価証券評価損(個別・連結)、関係会社株式評価損(個別)及び持分法による投資損失(連結)を計上することといたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

### 記

#### 1. 特別損失の計上について

##### (1) 投資有価証券評価損の計上について(連結・個別)

当社が保有する投資有価証券の一部において、2025年3月末時点で投資先企業の事業計画及び直近の業績推移等を精査し、超過収益力が株式取得時より減少したと判断しました。2025年3月期連結決算において、減損処理による投資有価証券評価損3億91百万円を特別損失に計上いたしました。

##### (2) 関係会社株式評価損の計上について(個別)

当社の持分法適用関連会社の一部において、2025年3月末時点で当該企業の事業計画及び直近の業績推移等を精査し、超過収益力が株式取得時より減少したと判断しました。2025年3月期の個別決算において、3億40百万円の関係会社株式評価損を特別損失に計上いたしました。

#### 2. 営業外費用の計上について

##### 持分法による投資損失の計上について(連結)

2025年3月期において、持分法による投資損失として3億25百万円を営業外費用に計上いたしました。これは主に、当社の持分法適用関連会社の一部において、業績が取得価額と比較して著しく下落したためであります。

#### 3. 業績に与える影響について

上記いずれも本日公表の「2025年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」に反映しております。

4. 連結業績の前期実績との差異について

(1) 2025年3月期の連結業績と前期実績との差異

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する 当期純利益 (百万円)	1株あたり 当期純利益 (円銭)
前期実績値(A)	11,334	△2,271	△2,239	△2,169	△16.01
当期実績値(B)	11,455	△3,480	△3,925	△3,896	△28.65
増減額(B-A)	121	△1,209	△1,686	△1,726	-
増減率(%)	1.1	53.2	75.3	79.6	-

(2) 差異が生じた理由

当連結会計年度の売上高は114億55百万円(前期比1.1%増)、主に米国での「ポケットーク」の販売が好調だったことにより売上高が前期比で1億21百万円の増加した一方で、「ポケットーク S2」の発売に伴い返品された旧製品のうち、製造年数の経過により修復が必要な端末についての評価損を計上したことにより、売上総利益は前期比で7億67百万円の減少となりました。この結果、売上総利益は53億36百万円(前期比12.6%減)となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、「ポケットーク」事業拡大のための人件費や業務委託費等の増加がありました。結果、販売費及び一般管理費は88億16百万円(前期比5.3%増)となりました。この結果、当連結会計年度の営業損失は34億80百万円(前期比53.2%増)となりました。

営業外費用につきましては、「2. 営業外費用の計上について」に記載のとおり、当社持分法適用会社の一部に対し、持分法による投資損失を3億25百万円計上した影響等により、営業外費用は4億70百万円(前期比78.9%増)となりました。この結果、当連結会計年度の経常損失は39億25百万円(前期比75.3%増)となりました。

また、「1. 特別損失の計上について」に記載のとおり、当社が保有する投資有価証券の評価損を計上いたしました。この結果、当連結会計年度の税金等調整前当期純損失は42億34百万円(前期比96.2%増)となりました。法人税等調整額2億3百万円を計上し、非支配株主に帰属する当期純損失5億47百万円を計上しました。以上の結果、親会社株主に帰属する当期純損失は38億96百万円(前期比79.6%増)となりました。

以上